

令和7年度（第4回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年10月28日（火） 14時00分～15時55分
 - 2 開催場所 加古川市役所新館10階大会議室
 - 3 出席委員 大山委員、日置委員、坂田委員、長谷川委員、後藤委員、岸本委員、菅原委員、藤野委員、徳田委員、小倉委員、山尾委員、高橋委員（12名）
 - 4 欠席委員 久保田委員
 - 5 出席職員 小南教育長、松尾教育指導部長、藤原教育指導部次長、尾崎教育指導部参事、今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、岡本社会教育課長、（西森担当副課長、福嶋家庭教育係長、土屋地域教育係長、本田主査）
 - 6 傍聴者 2名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
教育長より、出席委員に委嘱状及び任命通知書を交付
教育長あいさつ

○ 社会教育委員紹介

○ 委員長、副委員長選出 委員

委員長として後藤委員を推薦したい。

※全会一致で後藤委員に決定

委員

副委員長として徳田委員を推薦したい。

※全会一致で徳田委員に決定

○社会教育委員の役割及び令和7年度計画について （社会教育課より説明）

（協議事項）

家庭教育に関する保護者アンケートの実施結果について
（社会教育課より説明）

委員長

まずはこのアンケート結果を受けて、こどもがいらっしゃる方のご意見を聞いてみたいが、委員はどのように受け止めているか。

委員

保護者へアンケートを実施し、要約いただき有難い。保護者代表の立場として、結果を受けて、現状保護者はほとんど共働きのため、子どもと過ごす時間は大変少なくなっている点が昔と異なり、それが原因で子どもたちの面倒が見れない。少年団等が少しずつ減っているのも、親が少年団に連れて行けず、子どもだけでは行かせられないからという理由で徐々に親が子どもに関わるできない現状になっている。子どもたちの面倒を誰が見るのかという結果が、全部アンケートに現れているのではないのかなと思う。子どもと関わる時間がないから地域とのつながりができず、経済的余裕がないから働くしか選択肢がないため時間が確保できないのが今の現状である。しかしながら、今後中学生から部活をなくす方針となっている。学校で預かってもらえると親も助かるが、部活で預かれない現状が起こってくる。親は部活動がなくなると、クラブに送迎する負担が生じるが、その余裕がない場合、中学生はどうすればよいのかという課題が発生する。それを解消するバスの送迎があれば良いという意見も周囲から聞いており、保護者が送迎できなければ、自分で行ける環境を作ってあげたい。加古川市は見守りカメラが大変多く、子どもに万が一何かあった場合でも追跡ができる状態になっている。親が関わるできない現状を打破するために、地域の方々のお力をお借りしたい。公民館や学校施設等々を開放していただき、地域で仕事を退職した方やボランティアの方等の力を借りないと、我々だけでは子どもを育てられない状況であり、それがアンケート結果に全て現れていると考えている。

委員

スクリレを現在受信できる世帯数を教えていただきたい。スクリレの情報量が多く、便利な利点がある一方で見落としやすいという感覚を保護者として持っており、どこまで回答を促せたのかが知りたい。加えて、本アンケート結果が過去実施のアンケートと比較できればより良いと考えている。2022年に民法が改正され、児童の懲戒権がなくなったことと、しつけに対する本アンケート結果の相関関係が気になったところである。加えて、コロナ禍前後で人との距離を取ることが求められ、コミュニケーションの課題が生じたことも結果から読み取れるのか。学校教員のスクリレについての保護者の反応も教えていただきたい。

社会教育課 家庭教育係長

小・中学校の保護者の数は、それぞれ児童数ベースでしかわからないが児童数を足すと1万9,000人程である。世帯数では凡そ1万5,000程度とみており、アンケート回答数が1,500あれば1割から回答を得たことになると考えていた。実際は2,400を超える回答が得られ、想定以上と感じている。いただくご意見として、スクリレで発信される情報が多すぎるといった声があることを認識している。

教育指導部 学校教育担当参事

現在、スクリレの登録数は16,233件で、子ども1名につき3名登録できる制度のため家庭数の実数とは若干異なると思われる。また、市からのスクリレは登録せずに紙で欲しいという要望もあるため、100%ではないが、凡そ99%程の登録状況であったかと思う。特に夏休み前などの市役所内多数の部署からの情報発信について困っているといった保護者の意見もあり、今後の運用に向けて、重要度別でジャンル分けをするなど検討をしていきたいと考えている。

委員長

今回のアンケートは多くの回答が得られたことで、傾向が掴めたと思う。学校側の立場としても、紙を大量に刷ることがなくなり、デジタル配信は時代に合っていると思う。

委員

スクリレの発信は、学校側から保護者に対して発信されるものと、市から発信されるものに分かれているが、保護者としては学校側から発信されるものは必ず確認する。市から発信されるものに関しては情報量が多いため、ひとまず置いておく。気づいたら1週間で何十通も溜まり、保護者が取捨選択に悩んでいる状況がある。ただ、学校から来る情報は保護者にとって必要な情報なので、必ず確認している。市としても確実に保護者へ届けたいアンケート等は、学校経由で発信すると、回答率が上がるのではないかと思う。

委員長

スクリレについては、親にもうまく伝わるように、さらに良い方法があれば、また考えていただきたい。先ほど、こどもがいらっしゃる方の意見を聞いた。大事なことは、藤野委員からも「我々だけではやっぱりできない部分があり、助けてほしい。」とのご意見があったが、他の委員から提案などあれば、具体的には15ページに書いてもらっているが、これをどう、例えば普及するとか、これ以外にこんなものがあるのではという意見があれば、各委員から何か意見はないか。

委員

小中学生の保護者が対象だが、総数を教えていただきたい。

社会教育課 家庭教育係長

小学校と中学校のこどもを合わせた数がだいたい1万9,000人程度であり、複数こどもがいれば、先ほどスクリレが1万6,000程度の登録数とのことで、家庭数では1万5,000~6,000程度と考えている。

委員

2,400の回答数はそれなりに多いと思う。また、回答内容をみると、高い意識を持って真剣にこどものことを考えて回答されているイメージがある。以前よりも家庭教育の重要度が上がっているが、保護者の時間的・経済的な問題が多く、非常に苦しいところはあるが、この会議で様々な協議を重ねたい。

委員

家庭内でコミュニケーションが取れているのだろうかという疑問を、普段からこどもと接していることで感じている。親とこどもがすれ違い、例えば親がこどもの勉学の状況を把握しないまま、成績のことだけを考え塾に入れてしまい、あとで後悔するケースに出会うこともある。加えて、部活動の地域展開については、私も先に立ち上げを進めているが、願うことなら自転車で移動する場合の安全性リスクを考慮し、できるだけ移動せずに実施したい。移動用のバスを動かす交渉はスポーツクラブではできず、これは市と交渉してもらえないと思っているが、保護者説明会ではバスは出せないと結論付けられた。自転車では距離が遠すぎる地域の人が出て、部活動の地域展開に対する保護者の意識が薄れてしまわないかということを心配している。家庭教育だけではなく、社会教育と学校教育も一体となって進めていくことが重要だと考えている。

委員長

中学生にとっては非常に大切な地域展開になるので、今後も委員会の場などで意見等し

ていきたいと思う。

委員

自分が子育てをしていた当時、こどもの居場所について考えたことがあるかを振り返ると、地域の少年団や活動はあったが、今の時代との大きな違いはスマートフォンや SNS が普及していることやこどもの数が減っていることだと思う。40 年以上前だと思うが、国からの国庫補助事業で若い青年層を対象に今後親になっていく人たちへの学習プランを作り、講座として実施する事業あったが、公民館とのつながりがないと参加しにくいこともあり、人集めが難しかったことを思い出した。

話は変わるが、最近のこどもはテレビのインタビューに対して、上手に受け答えが出来ていると感心することがある。これは今のこどもに対する学校の先生のアプローチや親のしつけ等の教育や多様な情報が得られる環境にも起因すると思う。今後、中学校の部活動が地域展開されるにあたって、環境が変わっていく面があるが、昔から部活動に参加していなこどももいた。その人たちの成長過程を考えると、何か道筋はあったと思うので、道筋を狭めず、親としては難しい面もあるが、もう少しこどもたちに任せてこどもの成長を促す部分はあった方が良いのかなとも思う。こどもたちの自身の成長していく力は大きいと感じる。昔も今も、様々な問題を抱えながらではあるだろうが、こどもたちにとっての成長についても、併せて考えていくことが必要ではないかと思う。

委員長

こどもの力を伸ばす教育を学校ではどのように実施しているのか聞いてみたいが、委員いかがか。

委員

昔からそうだが、愛情を持って接して、長所をどんどん伸ばしていくということが大事であり、小中学生や学年に関わらず、その人の発達段階の人格を対等な立場として保護者が聞いてあげ、育てることが非常に大事だと思う。アンケート結果にある『家庭教育で心がけていること』の中で、気になった点があり、叱ることが中学校 2 年生になると減ってきている。これはある意味、こどもたちが自分を律することができている反面、場合によっては保護者の方が、こどもたちと距離をおいてしまって、関わっていないのではないかとも思われる。褒めることが中学校になると減っており、このあたりが家庭教育の大きな課題ということが結果から見えていると思う。こどもたちのことをさらに真剣に大切にしていくことが大事なのではないかと思う。

委員

今、学校では、昔と大きく違うのは、授業の方法が大きく変わっている。こどもたちが考えて、自ら発言して、自分たちで話し合いを行う活動が非常に増えているので、昔のこどもに比べて、今のこどもたちのほうが自分の言葉で表現することができるのだと思う。

委員長

こどもたちが上手に受け答えできる理由は、授業の方法の変化や SNS の普及で色々な方が話している動画なども参考にできる点も挙げられるような気がする。

委員

こどもたちがより SNS やゲームに時間を割いていることがこのアンケート結果に顕著に表れていると感じた。一方で、親は夫婦共働きの家庭が多く、こどもと接点を取りにくい

のかなと実感している。凡そ 20 年ぐらい前だが、氷丘小学校百周年をきっかけにできた有志のグループを立ち上げたことがある。メンバーは PTA の役員も多かったが、関係のない保護者の方も参加してくれるグループであり、学校の協力を得ながら、子どもたちを休みの日に募集して集めて、竹で水鉄砲を作ったりとか、流しそうめんを竹で作ったり、うどん打ち等をするなどの活動を年 2・3 回程度実施していた。始めた頃は数十人規模だったのが、そのうち 100 人ぐらいが参加する規模になり、結果 10 年続いた。そういうことをやるためには立ち上げようとする人の存在や、学校の先生方の協力があることで実現する。結果交流を深め、地域力につながると思う。しかしながら、今のことを考えると、保護者の時間が取れない状況であり、例えば公共施設の公民館を使ってするようなお願いをしても、なかなか実現は難しいと思う。公民館として子どもに参加してもらう事業を実施されているが、そこからさらに規模を広げて実施しようと思うと、やはり職員や地域の社推など各種団体にも負担がかかってくる。加えて高齢化も進んでおり、アンケート結果を見ていると、難しい部分があると感じた。

委員長

ずいぶん時代が変わってきたので、そういう組織を作ることも難しいと思うが、委員、地元での事例などがあればそれも含めてヒント等はないか。

委員

本日の協議事項の内容が重く、まとめられないと思いながら、他の委員の話聞いていた。感想としては、部活動がなくなるのは大変問題だと思った。普段私は社会福祉領域にいることから、障がいを持つ子どもたちと関わる機会が多く、施設の職員と話すと、障がいを持つ子どもたちでも、運動することにより、知能が約 20%程度上がるというのはアメリカの論文で発表されている。なので、スポーツをしながら勉強に取り組むということは非常に大事なことであり、それを部活動という形でずっとやってきたと思っている。今後部活ができなくなってきたら、子どもたちはどこでパワーを発散させるのだろうかというのが一つ問題かなと思った。うちの学生もよく言っているが、アルバイトで加古川市内を自転車で走ることがあるが、加古川の道は車の交通量が多く、怖いと言っている。一歩中に入ると住宅街に入ると、今度は道路が狭く、車を抜けて雨の日なんかは白線の上を走って転倒したり、車を避けようとしてこけることもあると聞く。そういうことを考えると、さきほどのバス送迎の話も重要なのかなと思い、委員のお話を聞いていた。特に来年の 4 月から道路の法律が変わり歩道が走れなくなることで、公道を中学生たちが夜走ることの危険性を理解した上で、この部活動のあり方を今後議論しなければ、失わなくてもいい命を亡くすことがないようにしてほしいと思った。

家庭教育のアンケートに戻ると、あのアンケートの初めからコミュニケーションという点で引っかかっている。なぜかという、会議冒頭で、加古川市内の小中学校の学力学習状況をパンフレットで紹介いただいた。その中で、加古川市の児童の自己肯定感は、全国と比較して高く、これはすごいと思った。大学に来ると、逆に自己肯定感が低く、困っている学生がいる中で、これだけ自己肯定感が高い子どもたちがいると知った。一方で親のアンケートを見ると、コミュニケーションで悩んでいる人が非常に多く、ではどんな教育を家庭でしているのか、若しくは子どもたちはどこで自己肯定感を高めているのか、それは学校教育の中で高めているのか、それとも YouTube や携帯をいじりながら自己肯定感を

高めているのであれば、これは問題だな、などと思っている。やはり自己肯定感が高まることは非常に大事なので、保護者の悩みもしっかりと聞きながら、親の自己肯定感を高めあげないといけない。加えてもう一つ、気軽に相談できる場所については、公共の相談機関に向かうのはハードルが高いとの結果が出ているが、加古川市はスクールソーシャルワーカーを入れている。保護者と先生双方の気持ちを理解しながら、こどもと寄り添える資格としては、やはりスクールソーシャルワーカーの役割が重要になってくると思う。また、他市と違って、加古川市は市教育委員会で実施しているはずなので、この点を全面に出しながら、中間役として担っていくことが非常に大切だと感じた。

委員長

委員がおっしゃった通り、本日は何ができるのかという課題も多い協議だったと思う。行政としてできること、考えていかなければならないことは引き続き検討いただき、また各委員におかれては、各種団体内等で知識を深めていただきながら、また会議の場で情報を共有し、進めていきたいと考えている。

(報告事項)

- (1) 近畿地区社会教育研究大会[和歌山大会](9/5)について【台風接近に伴い中止】
- (2) 東播磨・北播磨地区公民館連絡協議会 第2回研修部研修会の参加報告について
- (3) 社会教育委員協議会の今後の予定について

- 閉会 15時55分
副委員長あいさつ

以上